

No.	質問内容	回答
1	MOX工場を建設しても、事業として採算がとれるのか。 建設したのはいいが、事業として国際的な競争力に負け、すぐに縮小、閉鎖されるようでは、地元として困る。	計画中のMOX燃料工場の建設費約1,200億円は、フランスのメロックス工場、英国のSMP工場の建設費とほぼ同程度であり、競争力をもった工場と考えています。
2	MOXの加工費用はウラン燃料に比べ、どの程度割高になると評価しているか。安全性に疑問はないが、事業としての採算性の見通しはどうか。	MOX燃料は、ウラン燃料と比べて割高との試算もありますが、MOX燃料はウランの購入代や濃縮代が不要であり、原子力発電コストに及ぼす影響は1%程度であることから、この程度の影響であれば、今後の各電力会社の経営効率化努力で対応は可能と考えております。
3	経済性が無いのになぜやるのか。電気料金を払っている者の意見を聴いているのか。	
4	MOX燃料の製造費用は、ウラン燃料と比べて高いのですか。高い場合、民間企業である電力事業者は、何故高いMOX燃料を使うのでしょうか。(何故、安いウラン燃料を使わないのでしょうか。)	
5	廃止措置に伴う費用はどのくらいか。電力消費者にMOX燃料工場が建つことで負担がかかるということはないのか。	
6	将来、儲かると思うか。赤字だとどうなるのか。	当社はMOX燃料工場の安全を確保した上で、建設費及び操業費についてコスト削減を図っていく所存であり、収支を日々改善してまいります。

No.	質問内容	回答
7	<p>トータル経費はどの位を見込んでいるか。 その資金は積み立ててあるのか。 電事連から出るのか。 解体費用は国民負担を予定しているのか。</p>	<p>現在、国においてバックエンドに対する制度措置についてご議論頂いておりますが、MOX燃料工場についてはフロントエンドに分類され、その中には含まれておりません。これらの費用は加工事業費として電気事業者が負担することになるものと考えております。</p> <p>なお、MOX燃料の加工費は、通常のウラン燃料よりは高くなるものと思われませんが、元々、原子力発電にかかる費用のうち、燃料に掛かる部分は非常に小さく、そのうちの1/3程度のMOX燃料加工費の上昇分があったとしても、トータルでは約1%程度の影響に止まるものと予想しております。この程度の影響であれば、今後の各電力会社の経営効率化努力で対応は可能と考えております。</p> <p>【回答：電気事業連合会】</p>
8	<p>事業概要に、予定建設費約1,200億円とあるが、プラントと建物の比率はどうなのか。</p>	<p>概ね、設備50%、建物30%、電気20%と考えています。</p>
9	<p>建設費の土木建築と機械の内訳は。</p>	
10	<p>製造された製品の所外への輸送における安全対策は。</p>	<p>燃料集合体は輸送容器に封入して輸送します。輸送容器については、わが国の法令に規定される安全要件に適合し、密封、遮へい、臨界等の点で安全性が確保されるよう設計・製作いたします。輸送にあたっては、国による確認を受け、更に、輸送方法についても、輸送手段に応じた国による検査、確認（船等の構造、輸送物の積載状況、固縛方法等）を行い、その後輸送を行います。MOX燃料の輸送については、これまでの輸送実績を踏まえ、安全に行うことと致します。</p>

No.	質問内容	回答
11	日本原燃では再処理工場等施設を保有・設置しておりますが、工程上、転換工場、再転換工場の外部移送が必要ですが、日本原燃の施設として設置することが経済的と考えていますか。	日本原燃が転換工場、再転換工場をつくる計画はなく、外部の施設に委託することとしています。
12	なぜ、MOX工場を六ヶ所村につくるのか。原子燃料メーカーでやればよいのではないか。	六ヶ所再処理工場で製造されるMOX粉末を、MOX燃料工場の燃料製造の原料として使用するため、安定性、経済性の観点から、MOX燃料工場は六ヶ所村へ建設します。
13	なぜ原子燃料メーカーで作らないのか。	
14	核兵器の解体でありますけれども、核兵器にカテゴライズされている兵器であれば、いずれも解体後にプルトニウム、ウランなどが出来るものなのではないでしょうか。核についてよく存じ上げているわけではないものですから、核兵器の具体例など、できれば詳細にご回答いただけたらと思います。	一般論として、プルトニウムとウランを取り出して、MOX燃料を作ることになり、アメリカ、ロシアでその様な計画が進められていると聞いております。高純度のプルトニウムや高濃度のウランを使用して、原子力爆弾や水素爆弾が作られますが、これらを希釈して軽水炉で利用します。
15	MOX工場が稼働した際、燃料の他にどのような物質がでるのか。出るとすれば、それは安全に管理できるのか。MOX燃料を燃やした場合、燃えやすいものと、燃えにくいものとに分かれるが、燃えにくい燃料は安全に処理できるのか。	MOX燃料を原子力発電所で燃やした場合、さらにプルトニウムと燃えカス（核分裂生成物）が出ます。それらのプルトニウムには燃えやすいプルトニウムと燃えにくいプルトニウムがあります。それらは燃料棒の中に安全に閉じ込められます。また発電所で燃やした後のMOX燃料は再処理するまで発電所で保管します。

No.	質問内容	回答
16	<p>諸核施設でも現場（末端）での被ばくほとんど明らかにされる機会が無いようです。内部告発に関してはどのように考えてますか。</p>	<p>当社では、平成15年6月からダイレクトライン制度というものを運用しています。この制度は、社員、あるいは協力会社の社員から、法令や社内ルールに違反するもの、そのような恐れのあるものなどがあった場合に、このダイレクトラインを通じて情報の提供を受け付けるものです。又、そのような申し出があった場合には、役員以下で構成する運営チームにより事実調査を行い、必要に応じて是正措置を講じるなどしております。</p>
17	<p>高レベルガラス固化体貯蔵施設の設計ミス問題についてお伺いしたい。</p>	<p>当社は1月14日に、原子力安全・保安院からの文書による指示に基づき、特定廃棄物管理施設のガラス固化体貯蔵建屋B棟と同様な施設の、ガラス固化体貯蔵設備の崩壊熱の除去解析に関する再評価を行ったものです。結論から申しあげると、4建屋ともに、崩壊熱の除去解析における文献式の解釈を誤って計算していることが分かりました。ガラス固化体からの放射線を遮へいするための板がありますが、この部分の冷却空気の抵抗に関する設計に誤りがありました。このため当社の目標値である貯蔵時のガラス固化体中心温度の500と、ガラス固化体を貯蔵する部屋のコンクリート温度の65を超えることが分かりました。したがって、現在の迷路板部の設計では当社の目標値を満足できないと判断いたしました。当社といたしましては、安全を一つひとつ積み重ね、国民の皆様のご安心へとつなげていかなければならない中で、このような再評価の結果が出ましたことは、誠に申し訳なく深くお詫び申し上げます。</p>

No.	質問内容	回答
18	<p>今回のガラス固化体貯蔵施設の設計ミス問題が、ウラン試験以前に原子力安全・保安院へは報告されており、原燃へはウラン試験翌日の22日、そして原燃から県へは今年の1月14日まで報告されていませんでした。以前の説明会で信頼性の確保、透明性、情報公開を幾度となく言われましたが、言葉だけではないですか。</p>	<p>12月22日に原子力安全・保安院より特定廃棄物管理施設のガラス固化体貯蔵建屋B棟（EB2建屋）の崩壊熱除去解析の一部（冷却空気流路板部の圧力損失解析）に差違がある旨を指摘された時点では、当該設計に関する問題については認識していませんでした。また、ガラス固化体貯蔵建屋B棟（EB2）は、再処理施設ではなく廃棄物管理施設であることから、ウラン試験になんら影響を与えるものではないと認識しておりました。</p>
19	<p>再処理工場の設計ミスの連絡が入ったのは12月21日のウラン試験の前だったという情報があります。それは、本当でしょうか。なぜ、青森県には報告が遅れるのでしょうか。液漏れなどの事後報告は勿論、情報公開することが、適切でしょうか、然るべきところからのチェックや連絡はもっと事前に青森県や県民に情報公開していただきたいです。信頼につながっていくものと思います。</p>	<p>12月24日に元請会社から文献式の適用に関して事実関係の調査をしたい旨の連絡があったことから、再処理施設の同様の構造を有する高レベル廃液ガラス固化建屋（KA建屋）、第1ガラス固化体貯蔵建屋・東棟（KBE建屋）、第1ガラス固化体貯蔵建屋・西棟（KBW建屋）の3建屋も含めて調査を開始したものです。その後、崩壊熱除去性能の成立性の確認、当時の設計関係者への聞き取りなどの事実調査関係の調査等を開始したものです。また、1月14日に原子力安全・保安院からの指示文書を受けたことから、青森県知事及び六ヶ所村長へその旨報告したものです。</p>
20	<p>去年のプール漏えい問題の時に品質保証は確保されたとしきりに言っていましたが、今回のガラス固化体貯蔵施設の設計ミスが発覚しました。この品質保証とはどういう事なのでしょう。</p>	<p>当時の品質保証のやり方では問題が検知出来なかったが、プール水漏えい、硝酸漏えいの問題を契機に、当社の品質保証体制を大幅に改善しました。このため、今後は今回のような解釈の誤りは見つけることができると考えている。</p>

No.	質問内容	回答
21	水漏れ事故後、品質保証体制を強化したというが、なぜガラス固化体貯蔵建屋の設計ミスが発生したのか。設計ミスを隠して、ウラン試験を実施したことは許されない。品質保証体制に問題があるのではないのか。	ガラス固化体貯蔵施設の崩壊熱除去解析の誤りは、元請会社において、平成8年頃に行った高レベル廃液ガラス固化建屋（KA）及び第1ガラス固化体貯蔵建屋・東棟（KBE）の設計変更時および平成13年頃に行った第1ガラス固化体貯蔵建屋・西棟（KBW）およびガラス固化体貯蔵建屋B棟（EB2）の設計変更時の圧力損失計算における文献式の解釈の誤りがあったため発生したものでした。当社の品質保証体制は、プール水漏れ問題、硝酸漏れ等を契機に、第三者監査機関であるロイド・レジスター・ジャパンによる監査の導入など、大幅に改善しており、現在の品質保証体制においては、同種の式の解釈の誤りは検知でき、是正することができたと考えております。また設工認の設計に用いた式の確認においては、第三者監査機関であるロイド・レジスター・ジャパンによる監査を受けつつ行い、問題がないことを確認しました。今回、文献式の解釈に誤りのありました再処理施設の高レベル廃液ガラス固化建屋及び第1ガラス固化体貯蔵建屋・東棟については、現在、ウラン試験を実施している建屋とは切り離されていることから、ウラン試験の継続に影響を与えないことを確認しております。引き続きウラン試験については、安全を最優先に慎重に進めてまいります。また両建屋については、改造工事が必要なことから、国の設計及び工事方法の認可、使用前検査などを受け、設備改造を確実なものとした後、ウラン試験の最終段階である総合確認試験を実施してまいります。今後とも現状に満足することなく、常により良い品質保証を目指して改善していく活動を全社一丸となって展開してまいります。
22	今回公表された（ガラス固化体）設計ミスについて、これは重大な問題であると思う。プールの水漏れについて、今後は社長の関与を強化するとあるが、設計ミスの再発防止も同じ方向なのか。	
23	MOX工場を稼働するためには、六ヶ所村の再処理工場がとにかく安全な施設であり、日本原燃さんが、確かな技術と品質管理が行き届いていることが大切になるかと思えます。今回の設計ミスについて青森県議会全員協議会や市町村会の中でも国や事業者の責任を問う声が新聞で報道されていました。設計の段階でチェックできなかったのでしょうか。また次にこのようなことがないようにするために、どのような体制を組んでいるのでしょうか。	
24	日本原燃はMOX加工工場の設計上、安全であることを知事及び県議会に報告し、絶対安全を宣告した。しかし、六ヶ所村に建設中の高レベル放射性廃棄物（ガラス固化体）貯蔵建屋B棟について、崩壊熱を出す固化体の冷却機能が不十分であることが明らかになり、日本原燃は再検討をすることになった。以上のようなトラブルを見ると、国民、県民は、原子力安全委員会や保安院の安全審査は使用できない。もしトラブルが発生した際は、国なり、保安院なり、また原燃の責任者が辞任して責任を取るのか。この席上で言明してほしい。	